

地ひびき



313号

ある小さな美術展

丸岡 稔

平成29年1月5日～10日、長岡市中心部の大手通の一角、旧大和デパート長岡店一階のカーネーションプラザで、第15回「新年おめでとう美術展」が開かれました。

私がここ長岡市に移り住んで、今年で丁度50年になります。この時期、来る日も来る日も雪で、市民は毎日雪掘り（この地方では雪下ろしをこう言います）に追われていました。

当時、人口20万そこそこの都市にデパートが五つもあり、最も古い大和デパートは、正月には華やかな賑わいを見せていました。

今から20年以上前、このデパートの6階大ホールに、毎年1月2日から「新春美術展」が開かれていました。デパート側から、当時私が会長をしていた長岡市美術協会に、正月らしい美術展を開きたいのでと協力を申し込まれました。この頃、すでにデパート業界にもかげりが見えていて、街の表情にも活気がうすらいで来ていましたので、協会は全面的に協力することにしました。日本画、洋画、彫刻、工芸、書道、写真の6部門があり、毎回100点を超す展覧会になりました。小品販売コーナーもあり賑わったものです。

ところが数年経って、突然この催しの中止がデパート側から告げられました。翌年から、この会場は値段の安い雑貨品売り場に変っ

てしまいました。そしてやがて、長い間、質の高い文化発信の役目もして来たデパートそのものも撤退して行き、一階のみ、一部に商店街組合の地産品売場として営業が続けられることになりました。

街の中心部が急速に衰退して行くのは真に淋しいものですが、これは全国的現象となりました。屢々中心街の活性化対策についての話し合いが開かれましたが、これと言った決め手は見つかりません。新春美術展に関わった者の中で、何とか又楽しい美術展が開かれなもののかと言う人が出て来ました。「規模は小さくていい。一般の市民が気軽に参加出来る展覧会を開きたいという思いが膨らんで来ました。やがて、やはり廃業した近くのデパートの地下の食品売り場で、第1回の「新年おめでとう美術展」が開かれました。

「共に新年を寿ぎ、街の中心に活気を取り戻そう」と呼びかけたのでした。しかし間もなく、この地下会場は閉鎖となりました。幸い旧大和デパートの一階に余裕があったことから、無料で会場として提供してもらうことが出来ました。会場は明るく、通りからも良く見え、第1回展を開いた時、観に来てくれた人から「まるで銀座の画廊のようですね」と言われたことを覚えています。長岡市、教育委員会、商工会議所、新聞、テレビ関係も後援してくれました。いずれも、「名義だけです」と釘を刺されはしましたが。

しかし何事も、情熱だけではうまく行くとは限りません。実行委員の中でも意見がくい違って、ぎくしゃくすることもありました。

昨年、長い間、会計の仕事を初め、大事な仕事で盡力してくれた一人が、健康を理由に、8万円余の預金通帳を私に託して委員を退

きました。彼の今までの苦勞を思うと引き止めるわけには行かず、これから勝負の時だと思いました。この会の代表者である私は、これからの運営は、なるべくシンプルにしようと思いました。協力してくれる人には得意なジャンルの仕事を引き受けてもらい、私は過去に出品してくれた人で住所の分かっているものに、私達の希いを簡単な文章にして、出品申込み書に添えて送りました。70数通になりました。12月29日メ切り。郵送宛先は事務局丸岡医院。持参は展示会場になるカーネーションプラザ内「出品受付箱」へ。

メ切り当日、郵便配達が終わった時点で出品申し込書数33枚のみ、頼みは会場の「受付箱」。閉店ぎりぎりに行く。店の人が箱を逆さにすると、数枚の葉書がこぼれ出ました。「それだけですか」その人は箱を振って「まだありそうです」2、3枚がぼろり。「もうない?」「いやまだありそう」結局17枚が入っていました。これで50枚。昨年より1枚少ないがまあいいか、と帰宅したら、電話で、ある絵の教室から「明日でもいいでしょうか。7名なんですが」と。57名、立派なものじゃないかと、すっかり嬉しくなりました。しかも、1月5日の搬入日に2名の参加があり、急いで目録の最後に題名と名前を追加しました。

出品者には、発表するのはこの展覧会だけという人もいて、全てが上手、下手を超えた、心のこもった、制作者の顔が見える作品ばかりで、正にこの美術展にふさわしいものでした。

天候にも恵まれ、和やかな5日間の会期を終え、搬出の時、沢山の人が、自分の作品を持ち帰るだけでなく、後片づけを手伝ってく

れました。何人もの人から、「あのお手紙で出品する決心が付きました」と言われ、私達の気持が通じたことを何より嬉しく思いました。

この日、夕に委員6名でささやかな反省会を開きました。委員数は発足当時の半分ですが、みんな気持を一つにしてやってくれた者ばかりです。乾盃の前に代表者として「私は今まで、いろいろな会やイベントに関わって来ましたが、核になるものがしっかりしていれば、どんなことがあっても、たとえば存続が危ぶまれるような事態になったとしても、決して潰れない。やがて又、復活し花開くと信じて来ましたが、今回もやはり同じ思いをしています」と言いました。みんなも「これだけ市民が気持よく協力してくれるのだからその人たちのためにもがんばりたい」とか「第15回の今年の展覧会が一番良かった」とか、久しぶりで楽しい酒になりました。

私たちは私たちに、長岡市中心街の活性を希っての活動を始めたわけですが、この15年の間に、郊外にあった市役所が市の中心部に移り、関連施設も徐々に出来つつあります。「新年おめでとう美術展」の会場になっているこの建物も、中心街の再開発の対象になり、何れ取り壊される運命にあります。又、新たに会場探しに走り廻らなければならぬありますが、何年か後には、きっと今までよりもっと素敵な美術展になっていることと信じています。